

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
 21年度決算把握後 平成 22 年 5 月 20 日 作成

事務事業名	学童クラブ等障害児受入事業				<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	健康福祉部	課長名 青木 洋治
	施策	18	子どもを見守り、育てる地域づくり		所属課	子育て支援課	担当者名 榮 峰男
	基本事業	58	子育てと仕事の両立支援		所属班	子ども保育班	(内線) 2153
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果 : 5 コスト削減優先度評価結果 : 9
	1	3	2	4	10583		
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 21年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・発達障害児等の障害児を受入れている放課後学童クラブ(小学校学童クラブ及びキッズクラブ=放課後児童健全育成事業の補助対象クラブ)に対して、専門知識等を有する障害児対応指導員を派遣し、障害児の保育支援を行う。 ・放課後学童クラブで発達障害児等の障害児を受入れる場合、これまでは障害児受入れ加算(872,100円)として学童クラブを運営している保護者会への補助金に上乗せして補助していたが、国の制度変更により障害児の受入れ体制を強化するとして、専門知識等を有する障害児対応指導員を市が派遣若しくは育成することに変更されたため、この事業が必要となった。
【業務の流れ】	①事業打合せ ②事業施行伺い ③事業委託契約伺い ④委託契約書締結 ⑤支出負担行為 ⑥実績報告書・請求書受付、審査 ⑦支出命令書
【主な予算費目】	委託料 1カ所当たり1,421,000円
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	・放課後学童クラブにおける障害児の受入れ体制の強化について、議員からの一般質問がなされている。(H19.12第4回定例会) ・学童クラブからも、発達障害の恐れがあるいわゆるグレーゾーンの子どもが近年急増しており、指導員の確保のためにはぜひ本事業を実施継続して欲しいとの意見が出ている。

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動) (DO)	合志南小学校学童クラブ、西合志南小学校学童クラブ、西合志東小学校学童クラブ、キッズクラブの4箇所に委託した。	22年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 現在のところ、合志南小学校学童クラブ、南ヶ丘小学校学童クラブ、西合志南小学校学童クラブ、西合志中央小学校学童クラブ、西合志東小学校学童クラブ、西合志東小学校第二学童クラブ、キッズクラブの計7箇所に委託する見込み。
④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位) クラブ	(単位) クラブ
→ ア 放課後学童クラブ数	イ	イ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	・学童クラブが受け入れている障害児数	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) 人
		→ ア 学童クラブの受入れ障害児数
		イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	・安心して子育てができる。	⑥ 成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) クラブ
		→ ア 障害児を受け入れている学童クラブ数
		イ
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠 障がい児童を受け入れている学童クラブに対して実施する事業であるため、学童クラブ数とした。		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	19年度実績(決算)	20年度実績(決算)	21年度目標(当初予算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	23年度予定	24年度見込	
④ 活動指標	ア クラブ			6	7	7	7	7	7	
	イ									
⑤ 対象指標	ア 人			12	10	15	10	10	10	
	イ									
⑥ 成果指標	ア クラブ			4	4	4	5	5	5	
	イ									
投資量	事業内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円		2,956	3,789	3,789	6,631	6,631	6,631
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	人件費	一般財源	千円		2,728	1,895	1,895	3,316	3,316	3,316
		(A) 事業費計	千円		0	5,684	5,684	9,947	9,947	9,947
		(A)のうち指定経費	千円							
		(A)のうち時間外、特勤	千円							
		正規職員従事人数	人			3	3	3	3	3
延べ業務時間	時間			40	40	40	40	40		
(B)人件費計	千円		0	160	159	159	159	159		
トータルコスト(A)+(B)	千円		0	5,844	5,843	5,843	10,106	10,106	10,106	

総トータルコスト
全体計画
～ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)
0
0
0

事務事業名	学童クラブ等障害児受入事業	所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
-------	---------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合はその原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 ↷	障がい児童を受け入れている学童クラブ全てに委託したため達成できた。
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 ↷	障がい児童を受け入れている学童クラブ全てに委託するため目標達成の見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ↷	・障害児を受け入れに伴う指導員研修等を年数回実施し、指導員の室の向上に努める。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ↷	放課後児童で障がいのある児童の預かりを行う事業であるため他に類似する事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷	・現在の額でも国の定める基準以内で設定している。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷	・現在、ぎりぎりの職員で対応している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ↷	本事業の対象は障害児を受け入れる学童クラブ自体であるため、当該事業を行うことでクラブ全体の子どもの健全育成につながっているため公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ↷	支援を要する児童の預かりであるため、責任の度合いが大きく役割分担は難しい。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

・障がい児童、特に発達障害の恐れがあるいわゆるグレーゾーンの子どもたち等支援を要する児童がいる学童クラブに、市が独自に行う講習会に参加した専門知識を要する指導員を配置することで適切な支援ができた。
・国の制度では、一箇所単位での補助であるが、障がい児童、特に発達障害の恐れがあるいわゆるグレーゾーンの子どもたち等支援を要する児童が増えているため、複数人いる学童クラブについては指導員の人員配置に厳しいところもある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善(有効性改善)
 事業のやり方改善(効率性改善) 事業のやり方改善(公平性改善)
 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

国の制度であるため、国の支持に従う。

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

指導員の質の向上を図るため、質も高い研修等を年数回実施しなければならない。